チャイナリスク

1. 中国企業と中国政府の不透明な関係

中国には多数の国有企業が存在している。しかし、中国企業と中国政府の関係性は不透明であり、その実態を全て把握することができない。そのため、その企業の経営戦略と中国政府の関連性や投資元など不明な点が多い。

1. 中国政府の介入や規制

中国では、海外とのM&Aにおいて明確な法整備がされておらず、法の解釈に幅がある。そのため、中国政府の意向次第ではM&Aが承認されない可能性がある。

他にも施行されている法や規制の内容が突然変更され、買収時だけでなく買収後の経営計画に影響が出るリスクもある。2010年9月には尖閣諸島中国漁船衝突事件後に事実上の輸出規制などを行い、2012年9月には尖閣諸島国有化後に日本からの輸入品の通関の厳格化や遅滞、日系商品の不買運動や日本企業への発注キャンセル、取引停止など中国政府は様々な報復措置を講じた。

中国において、政治問題を起因としたリスクは発生しやすく、中国でビジネスを行うには大きなリスクを伴う。中国政府や各種許認可・審査機関の動向を常に考慮しなければ、逆に損失を被る可能性がある。

―参考―

TCG 企業買収後の諸問題/中国進出コンサルティング　閲覧日2020年11月20日

<https://www.kuno-cpa.co.jp/tcf/china/service/m&a_obstarcle.php>

中国企業とのM&Aの特徴と留意点とは？　閲覧日2020年11月20日

<https://fundbook.co.jp/china-ma/>

M&A総合研究所　中国でのM&Aは？M&A成功のポイント懸念点を解説

閲覧日2020年11月20日

<https://mastory.jp/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%A7%E3%81%AEM&A>